

有名企業の決算書を使って、いきなり実践トレーニング!

経理マン
以外の
人のための

財務諸表の 読み方&使い方

「会計は経理マンならずとも必須スキル。決算書や財務諸表くらい読めるようにならなければ」。そう思って入門書を読みはじめたものの、専門用語ばかりでイヤになってしまい、途中で読むのをやめてしまった。あるいは、読み終わったときはわかったような気になったものの、仕事で使うこともなく、いつの間にか忘れてしまった……。そんな人も少なくないだろう。そこで、会計と経営の両方に精通する専門家に、「ほんとうに使える財務諸表の読み方&使い方」と、それを最短距離でマスターする秘訣を伝授してもらった。

最初に
質問です。

監修 Toru Nakamura 中村 亨

公認会計士/税理士
㈱コーポレート・アドバイザーズ・アカウンティング代表取締役社長
青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科講師



1968年、富山県生まれ。早稲田大学政経学部卒業。93年、公認会計士2次試験合格、同年、監査法人トーマツに入社。大手企業の監査業務を経て独立し、個人事務所を開業。200社近いベンチャー企業の経営・財務に携わり、自らが取締役等として経営参画するスタイルをとり、2社をIPOに導き、総額80億円の資金調達に貢献する。2005年には、㈱コーポレート・アドバイザーズ・アカウンティングを設立し、約40人のプロフェッショナル集団を築き上げる。現在も、成長企業を対象にする会計/税務・IPOコンサルティング、M&Aアドバイザー、J-SOXコンサルティングを展開している。著書に、「俯瞰」でわかる決算書(ダイヤモンド社)がある。

なぜ、あなたは「財務諸表」の知識を学びたいのですか？

財務諸表を
「**読める**」
ようになるため



決算書、財務諸表を読みこなして、ビジネス、仕事に役立てるため。具体的には、法人営業マンであれば取引先の経営状況把握、経営企画部門の人であれば自社の経営分析や競合のビジネスモデル・戦略分析、転職希望者であれば内定企業の経営状況把握などができるようになるため。

財務諸表を
「**つくれる**」
ようになるため



決算書や財務諸表を扱う職業に就いたり、それに直接関わる部門で働くため。具体的には、経理部門で働くため、税理士、あるいは、公認会計士といった試験を受け、専門家になるため。

簿記の学習から始めるべき

本特集を読むべし!

取材・構成 杉山直隆